

令和7年度
小田原市教育研究所
要 覧



小 田 原 市 教 育 研 究 所

住 所 〒250-8555 小田原市荻窪300 小田原市役所5階

電 話 0465-33-1726(所長) 33-1730(研究・研修)

33-1727(ICT活用)

F A X 0465-32-7855(教育委員会)

E-mail : kyo-labo@city.odawara.kanagawa.jp

H P : <http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/education>

Ⅰ 小田原市教育研究所設置条例(抄)(昭和31年12月27日 条例第33号)

第2条 本市教育の刷新並びに振興を図るため小田原市教育研究所(以下「研究所」という。)を小田原市荻窪300番地に設置する。

第3条 研究所は次の事業を行う。

- (1) 教育の調査及び統計に関する事項
- (2) 教育の内容改善に関する事項
- (3) 教職員の資質向上に関する事項
- (4) 教育相談に関する事項
- (5) その他必要な事項

第6条 研究所の運営を円滑にするため学校その他の団体との連絡協議会を設けることができる。

第7条 研究員は毎月5日までにその前月における研究の経過を所長に報告しなければならない。

所長は、前項の報告を教育委員会の閲覧に供するものとする。

第8条 所長は、研究事項の研究を終わったときは、その結果を教育委員会に報告しなければならない。所長は、適当な方法により研究の結果を発表して本市の教育の向上に資するものとする。

第9条 この条例に定めるものを除く外必要な事項は別に教育委員会が定める。

2 沿革

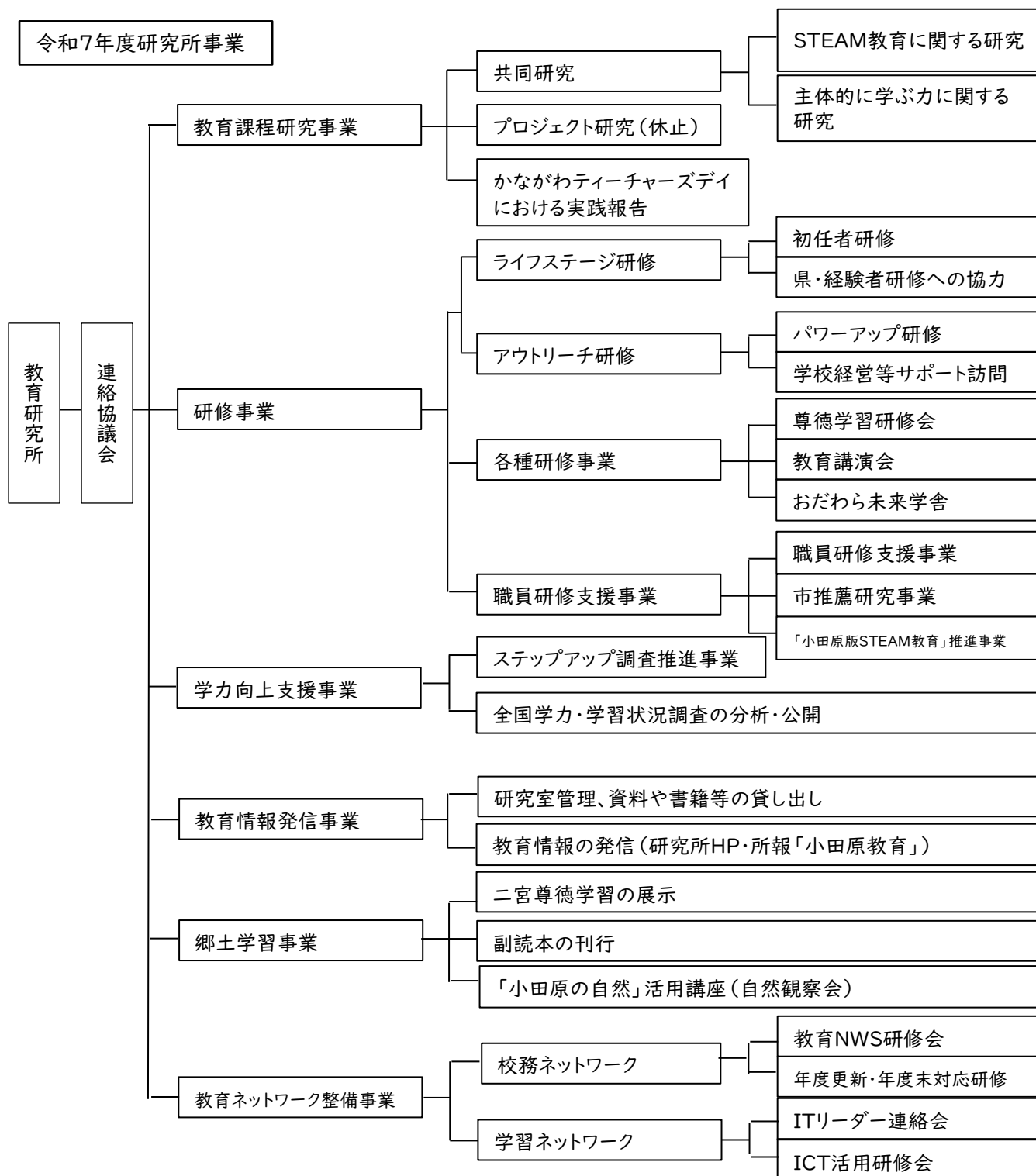
- | | |
|------------------|--|
| (1) 昭和25年 5月22日 | 市規則第47号をもって「小田原市教育研究所設置規則」が公布され、同23日小田原市本町小学校において開所式を挙行、同校の一室に教育研究所がおかれた。 |
| (2) 昭和27年11月 1日 | 小田原市教育委員会の事業所となった。 |
| (3) 昭和29年 4月 1日 | 小田原市幸1の155の小田原市教育委員会の庁舎に移転した。 |
| (4) 昭和31年12月27日 | 同年6月30日公布の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第30条により、市条例第33号をもって「小田原市教育研究所設置条例」が公布され、同日から施行された。 |
| (5) 昭和36年 4月18日 | 小田原市幸1の853市立本町小学校内に移転した。 |
| (6) 昭和37年12月 3日 | 小田原市幸1の900の1(住居表示変更により城内4番30号)小田原市教育委員会の庁舎に移転した。 |
| (7) 昭和46年 3月29日 | 小田原市城内3番10号、城内小学校内に移転した。 |
| (8) 昭和51年 7月26日 | 小田原市荻窪300小田原市役所庁舎に移転した。 |
| (9) 昭和52年 9月26日 | 小田原市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則により第3条小田原市教育研究所設置条例(昭和31年小田原市条例第33号)第1条に規定する教育研究所は管理部に属し、同所に庶務係を置いた。 |
| (10) 昭和61年 6月30日 | 小田原市教育委員会事務局処務規則の一部改正により第3条小田原市教育研究所設置条例(昭和31年小田原市条例第33号)第1条に規定する教育研究所は学校教育部に属することになった。 |
| (11) 平成 3年 4月 1日 | 登校拒否児童・生徒のための教育相談指導学級(昭和63年4月1日発足)が教育研究所の所管となった。 |
| (12) 平成11年11月 1日 | 教育相談指導学級マロニエ教室を開室した。 |
| (13) 平成17年 1月 7日 | 教育相談指導学級本町教室をしろやま教室に移転した。 |
| (14) 平成18年 4月 1日 | 学校教育課の教職員関係の研修が教育研究所の所管となった。 |
| (15) 平成21年 4月 1日 | 教育研究所は教育指導課に属することになり、教育相談事業は教育指導課相談担当の所管となった。 |
| (16) 平成22年 4月 1日 | 旧片浦中学校施設利用のモニタリング調査により、教育研究所片浦分室を設置し、研修相談業務を行うことになった。 |
| (17) 平成24年 3月31日 | 旧片浦中学校施設利用のモニタリング調査が終了したことにより、教育研究所片浦分室を閉鎖した。 |
| (18) 令和 2年10月 1日 | 学校の休校に備え、学習用端末と家庭用通信機器の貸出しを開始した。(学校安全課学校施設係、教育指導課教育研究所) |
| (19) 令和 3年 4月 1日 | GIGAスクール構想による校内無線LANの整備と学習用端末の児童生徒一人一台整備が完了し、運用を開始した。(学校施設係、教育研究所) |

3 運営方針

教育研究所は、研究調査、研修、資料の収集、提供等に関する事業を通して、本市教育の充実、振興に寄与する。

- (1) 学校経営の改善充実のための基礎的問題をとらえ、教職員並びに教育諸団体の協力を得て調査研究したものを学校へ提供する。
- (2) 学校の研究や実践に対し、資料提供その他を通して協力・支援する。
- (3) 教職員の資質向上に関する事業を開催する。
- (4) その他教育研究に関することを扱う。

4 業務機構



5 職 員

職 名	氏 名	分掌事務
所 長	中畑 幹雄	総 括
指導主事	中野 加弥子	研究・研修
	眞鍋 智洋	研究・研修
研修相談員	石井 政道	ICT活用統括
	中島 基行	研修相談
	高松 宗	研修相談

6 連絡協議会規約

- (1) 小田原市教育研究所設置条例第6条に基づき小田原市教育研究所連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）を置く。
- (2) 連絡協議会は、所長の諮問に応じて下記の事項について協議し、研究所の円滑な運営をはかることを目的とする。
- ① 研究・調査の計画、組織、方法に関すること
 - ② 教職員の資質向上のための研修に関すること
 - ③ その他必要と認める事項
- (3) 連絡協議会の委員は、次に掲げる者をあてる。

任 期 令和7年4月1日～令和8年3月31日

役職名	氏 名	備 考
委員長	北川 誠	中学校教育研究会代表 白鷗中学校長
副委員長	平居 智基	小学校教育研究会代表 豊川小学校長
委 員	岩田 京子	幼稚園教育研究会代表 報徳幼稚園長
〃	瀬戸由里子	小学校長会代表 報徳小学校長
〃	長田裕一郎	中学校長会代表 鴨宮中学校長
〃	鈴木 直人	小中教職員代表 桜井小学校教諭
〃	田中 穂積	教育研究所研究員代表 城北中学校教諭
〃	松澤 俊介	教育委員会代表 教育指導課長

委員の任期は1か年とする。ただし、再任を妨げない。

- (4) 連絡協議会に次の役員を置く。
- ① 委員長 1人 副委員長 1人
 - ② 委員長、副委員長の選出は、委員の互選による。
 - ③ 委員長は会を代表し、会務を処理する。副委員長は委員長を助け、委員長に事故あるときは、委員長の職務を代理する。

7 教育課程研究事業

(1) 共同研究

- ① 目 的 緊急又は将来要求される教育課題をテーマに、グループを組織して研究を進め、研究成果を広く共有できるようにする。
- ② 対象者 原則として市内小中学校及び幼稚園の教員を研究員とする。
- ③ 研究回数 年8回以内（各部会） 午後日程で研究日を設定

④内 容

○「小田原版STEAM教育の充実に関する研究」 2年目／2年間

地域の課題に着目し、児童生徒が必要性を体感しながら、主体的に探究していく学びを展開するための指導方法について研究し、指導のポイントを明らかにするとともに、実践を通してその具体例を積み重ねる。

○「主体的に学ぶ力に関する研究」 1年目／2年間

児童一人一人の学びに向かう力の育成と、そのための多様な学び方の視点における授業改善の手立てを探り、その実践事例や成果を市内小中学校に広める。

(2) プロジェクト研究(教科教育に関する研究)

新しい分野の共同研究に注力するため、令和7年度も休止する。

(3) かながわティーチャーズデイにおける実践報告

- ・ 日 時 令和7年8月20日(水)
- ・ 会 場 神奈川県立総合教育センター
- ・ 参加者 研究所所員、共同研究員代表
- ・ 発表者 令和7年度の発表は辞退する

8 研修事業

(1) ライフステージ研修

①初任者研修会

ア 目 的 小田原市立小中学校教員としての自覚と教員としての資質の向上を図る。

イ 対象者 初任者

ウ 期日及び研修のポイント(重点)

回	期 日	研修のポイント(重点)	場 所
1	7月25日(金) (午後)	・生徒指導、支援教育等の指導主事講話 ・先輩教員からの話・グループ協議	オンライン

(2) アウトリーチ研修

①パワーアップ研修

ア 目 的 意欲ある教員の資質向上を図るための個人研修

イ 対象者 選考された研修者(小中学校あわせて20名以内)

ウ 期日及び研修のポイント(重点)

回	期 日	研修のポイント(重点)	場 所
1 ～ 5	年5回程度 個別計画による	・研修相談員が学校を訪問して個人テーマに基づいた研修を実施する。	各校

②学校経営等サポート訪問

ア 目 的 教育研究所長が、学校経営等に関する相談を行い、学校運営をサポートする。

イ 対象者 校長、教頭等

ウ 期日及び内容

回	期 日	研修のポイント(重点)	場 所
	令和7年度内の 課業日	・学校経営に関する相談、アドバイス ・前後期1回ずつ希望校への訪問を実施する なお、新任校長の学校は悉皆とする	各校

(3) 各種研修事業

①尊徳学習研修会

ア 目 的 二宮尊徳翁の事績等について本市教育研究所発行の読み物資料「二宮金次郎物語」を活用して研修を深め、教職員の資質と実践力の向上を図るとともに、尊徳学習の推進に役立てる。

- イ 対象者 ・初任者
 ・市外からの異動者で研修を受けていない者
 ・小・中学校教員希望者

ウ 期日及び研修のポイント(重点)

回	期 日	研修のポイント(重点)	場 所
1	夏季休業中	・各校で「二宮金次郎物語」を読み、報告書を提出	机上研修

②教育講演会

- ア 目的 今日の教育課題や教職員の教養を広めるテーマについての講演を聴くことにより教職員の資質と指導力の向上を図る。

- イ 対象者 市内幼・小・中教職員、足柄下郡教職員、行政関係者

ウ 期日及び内容

- ・日 時 令和7年8月21日(木)
- ・会 場 小田原市民ホール(三の丸ホール)
- ・講 師 田畑 栄一 氏 (元 埼玉県公立小学校 校長)
一般社団法人「Laughter」所属
- ・演 題 未定

③おだわら未来学舎

- ア 目的 学級経営や教科指導、学校が抱える様々な課題などについての知識と実践力向上の研修を行い、教員としての専門性と人間性を高める機会とする。

- イ 対象者 市内を中心とした教職員

ウ 期日及び内容

	講 師	日時・場所	内容(仮)
1	松久 眞実 氏 桃山学院大学教授	令和7年5月30日(金) オンライン	愛着の課題を抱える児童生徒への理解～教室でできる支援とは～
2	板寺 洋一 氏 県立温泉地学研究所 専門研究員	令和7年6月20日(金) 小田原市役所大会議室 オンライン	火山・地震災害に備える
3	小林 宏己 氏 早稲田大学名誉教授	令和7年9月19日(金) けやき大会議室 オンライン	児童生徒の思考を基にした単元づくりについて
4	工藤 勇一 氏 元横浜創英中高等学校校長	令和7年11月21日(金) 小田原市役所大会議室 オンライン	続 社会の変化とこれからの学校教育について

(4)職員研修支援事業

①職員研修支援事業

- ・各校で行われている研修会等の情報を集約し、年間を通して相互参加が図れるよう周知する。
- ・共同研究等の研究成果の展開や、学力向上や校内研修等に関する訪問相談を実施する。
- ・授業づくり、学級経営、校内研究等についての相談や、資料の提供を行う。
- ・校内研究に関わる講師謝礼(市全体で750,000円)と、校内研究消耗品費(市全体で360,000円)の補助を行う。

②市推薦研究事業

- ・各校で行っている校内研究をより充実させたいと希望する学校を募集し、内容等を審査した上で、4校を市推薦研究校とする。
- ・推薦研究校は、成果を本市学校教育に反映させるため、研究発表会や授業公開により市内各校に公開する。
- ・委託ではなく、市教育委員会の直接執行で行う。(講師謝礼60,000円×4校、消耗品費40,000円×4校)

③小田原版STEAM教育推進事業

- 中学校の総合的な学習の時間において、郷土小田原をフィールドに、生徒が身近な実社会の諸問題と出会い、その問題の解決のために各教科で学んだことを統合的に働かせながら、探究的・創造的な活動を行うことで、よりよい社会を実現しようとする資質と能力を育てることを目的とし、「小田原版STEAM教育」を行う。

<推進にあたって行うこと>

- ・令和5年度に、モデル校1校を指定し、研究内容について実践するとともに、教科としての専門性に特化し、中学

校の教員に対し専門的な研修や授業導入支援をするため、専門知識を有する事業者に業務委託をした。令和6年度には4校への導入支援を行い、令和7年度には残りの6校への導入支援を行い、令和8年度に各中学校で小田原版STEAM教育が教職員により完全実施され、生徒の探究的な学びが、学校内で完結することなく、地域社会に目を向け、社会に参画していくような広がりを見せることを目指す。

・また、各中学校の総合的な学習の時間における取組の内容について情報共有するとともに、小田原版STEAM教育に係る探究的な学びについての共通理解を図るため、各中学校を対象に総合的な学習の時間連絡協議会を年間2回開催する。

回	期 日	研修名	場 所	研修形態	対象
1	5月28日(水)	総合的な学習の時間 連絡協議会①		オンライン	総合的な学習の時間 担当者もしくは共同 研究の研究員 各校1名悉皆
2	1月30日(金)	総合的な学習の時間 連絡協議会②		オンライン	

9 学力向上支援事業

(1) ステップアップ調査推進事業

① ステップアップ調査

ア目的 一人ひとりの学力やよさを伸ばすため、学力の「伸び」を経年で測定し、そのデータをエビデンスとして、授業改善及び個に応じたきめ細かい指導に生かすことを目的として「ステップアップ調査」を実施する。

イ対象 小学校4年生～中学校2年生

ウ方法 学習用端末を用いたコンピュータベースドテスト(CBT)方式

② ステップアップ調査活用研修会

ア目的 調査結果から学力の伸びを把握し、その状況に応じた指導の改善・工夫について考える。

イ方法 8月下旬～9月下旬に各校で実施予定（指導主事派遣）

(2) 全国学力・学習状況調査の対応と検証

・実施日 令和7年4月17日(木) 小学校6年生 国語・算数・理科
中学校3年生 国語・数学・理科

・児童生徒質問紙調査・中学校理科についてはオンラインで実施。

・国の結果公表を受け、市としての分析を行い、分析結果を教育研究所ホームページに掲載する。
各学校においても結果を分析し、学力向上の取組や授業改善等に活用する。

10 教育情報事業

(1) 情報収集と提供

- ・図書・資料、DVD等各種の教育情報を収集、整理、保管
- ・教育研究所にある書籍については、校務支援ネットワークにある「市内共有・99教育委員会・05教育指導課・23教育図書」から「教育図書(2025-2-14)基本ファイル」にデータで管理している。
- ・教育研究所ホームページにて、様々な行事や研修等の情報を公開する。
- ・中央教育審議会や教育課程審議会等の動向を注視し、情報収集にあたる。

(2) 教育情報発信

- ・研究所所報「小田原教育」※年2回学期ごと。(その他、必要な情報を「所報臨時版」として適宜発信する。)
- ・教育研究所要覧
- ・学校ホームページの支援と推進、教育研究所関連ホームページの更新

11 郷土学習事業

(1) 二宮尊徳学習の実施

- ・ 二宮尊徳翁の事績等を学習することにより、郷土の先人を愛する心を育てるとともに、自己の生き方の一助とする。
- ・ 小学校1校あたり 4,000 円で実施。尊徳記念館のボランティア解説員の講師謝礼については別途対応。

(2) 副読本の刊行

- ①理科副読本「小田原の自然」（対象：小学校4年生）
- ②郷土読本「小田原」（対象：中学校1年生）
- ③小学校社会科副読本「わたしたちの小田原」（対象：小学校3年生）
- ④「北条五代物語」…平成 25 年度に刊行し、各校に 40 冊配付

平成 30 年度に各小学校に1冊配付

※令和7年度は、「わたしたちの小田原」の改訂を予定。

※改訂の都度、新規に 40 冊+α を配付していく。教材のデジタル化推進の観点から、個人への配付は廃止し、デジタル版で静止画・動画を含め視聴できるようにしていく。（デジタルミュージアム、教育研究所ホームページ内）

(3) 理科副読本「小田原の自然」活用講座（自然観察会）

- ①目 的 理科副読本「小田原の自然」を活用した自然観察会の実施により、参加者の郷土の自然に対する興味・関心や探求心を高め、自然を愛する態度を養う。
- ②対象者 市内小中学生、教職員
- ③実施回数 年間7回実施

	4月19日(土)	5月10日(土)	6月7日(土)	7月5日(土)
場 所	アリーナ～桑原	江之浦海岸	城址・城山周辺	辻村植物公園
内 容	平地の自然	海岸の自然	初夏の野鳥	丘陵の自然
期 日	11月1日(土)	12月6日(土)	1月17日(土)	*2月20日(金)
場 所	曾我山・弓張の滝	アリーナ付近	蛸田駅～狩川	反省会
内 容	山地の自然	酒匂川の自然	酒匂川水系の野鳥	

12 教育ネットワークシステム(教育ネットワークシステム事務局)

(1) 教育委員会で実施すること

①教育ネットワークシステム研修会【異動者等に対する研修】

- ・異動者や未受講者等に対し、新システムの周知および再確認のため、毎年度当初に研修を実施する。

回	期 日	研修名	場 所	研修形態	対 象
1	4月25日(金)	教育ネットワークシステム異動者研修会	各校	オンライン	異動者(システム利用者研修を未受講の方全員)及びITリーダー希望者

②ITリーダー連絡会

- ・教育ネットワークの運用に係る連絡会(各校1名の参加)を実施する。

回	期 日	研修名	場 所	研修形態	対 象
1	4月21日(月)	ITリーダー連絡会①	各校	オンライン	各校のITリーダー等
2	7月24日(木)	ITリーダー連絡会②	各校	オンライン	各校のITリーダー等
3	1月27日(火)	ITリーダー連絡会③	各校	オンライン	各校のITリーダー等

③情報モラル教育研修会

- ・「GIGAワークブック」について研修を行う。

回	期 日	研修名	場 所	研修形態	対 象
1	8月1日(金)	GIGAワークブック活用研修会	各校	オンライン	情報モラル教育担当者1名以上

③ ICT活用研修会 I

・学習履歴分析・デジタル教科書の活用等のICT活用について研修を行う。

回	期 日	研修名	場 所	研修形態	対 象
I	7月25日(金)	ICT活用研修会 I (中学校)	けやき 視聴覚室	集合研修	各中学校1名

④ ICT活用研修会 II

・授業支援システム・デジタル教科書の活用等のICT活用について研修を行う。

回	期 日	研修名	場 所	研修形態	対 象
I	7月25日(金)	ICT活用研修会 II (小学校)	けやき 視聴覚室	集合研修	各小学校1名

(2) 各校で実施すること

次の①～④については、各校の状況に応じITリーダーを中心に各校で実施すること。

①通知表(票)作成研修 ～小中学校～

②調査書研修 ～中学校～

③セキュリティポリシー研修 ～小中学校～【必要に応じて】

〈セキュリティポリシーの共通理解に関する研修〉

④ICT活用校内研修会(年2回)

【教育ネットワークシステム整備事業】

(1) 教育ネットワークシステム検討会

①目 的 「小田原市教育ネットワークシステム検討会設置要綱」に基づき、小田原市教育ネットワークにおける各種システムの導入等を推進するとともに、その円滑な運用に資するために、小田原市教育ネットワークシステム検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

②組 織 決定機関である「検討会」と検討会に回る原案や資料等を作成する「部会」を設置する。

③対象者 【検討会員】 校長会代表(2) 教頭会代表(2) 教育部長 教育部副部長
教育総務課長 教育指導課長 情報システム課長
他、教育委員会が特に必要と認める者
【部会員】 総括教諭代表(2) 教諭代表(4) 教育指導課指導係長
他、教育委員会が特に必要と認める者
【事務局】 学校情報システム管理者(教育指導課長) 教育指導課副課長
教育指導課指導主事・担当者

④回 数 必要に応じて予定

【セキュリティ委員会(学校情報セキュリティ委員会)】

①目 的 学校情報セキュリティポリシー改訂等に関する重要事項に対して審議を行う。

②対象者 小・中学校長会長 教育長 教育部長 教育総務課長
教育指導課長 教職員担当課長 他、教育委員会が特に必要と認める者

③回 数 未定(1月に1回および必要に応じて実施予定)

期 日	内 容	場 所	担 当 者
1月	学校情報セキュリティ監査の結果について 令和7年度のセキュリティ事故について	未定	教育ネットワークシステム事務局

13 令和7年度 研究員

(1) 共同研究 研究員(10名) ◎委員長

① 小田原版STEAM教育に関する研究(5名) 研究期間R6.4~R8.3

氏 名	所 属	氏 名	所 属
伊與田 祐樹	白鷗中学校	福岡 生実	泉中学校
生月 美帆	鴨宮中学校	◎田中 穂積	城北中学校
角野 篤	千代中学校		

② 主体的に学ぶ力を伸ばす研究(5名) 研究期間R7.4~R9.3

氏 名	所 属	氏 名	所 属
土田 崇朝	山王小学校	小林 昂太朗	千代小学校
◎浅田 早百合	酒匂小学校	濱田 浩輝	東富水小学校
佐野 花香	矢作小学校		

14 設置以来の共同研究テーマ

年度	研 究 内 容
昭和 25	1 中学校ガイダンスプログラムの作成 2 小学校各教科の要素表の作成研究
26	1 中学校ガイダンスの理論と実際 2 特殊教育の研究(4年間の1年目) 3 小学校基準教育課程の研究作成 4 個人委託研究
27	1 中学校ガイダンス技術の問題 2 特殊教育の研究(2年目) 3 小学校カリキュラムの構成(実験学級を通して)
28	1 特殊教育の研究(3年目) 2 地域の実態調査研究(2年間の1年目) 3 基準教育課程の実践研究(小学校実験学校を通して) 4 ガイダンス計画の適用(中学校実験学校を通して) 5 学習資料シリーズの編集(1~4号)
29	1 特殊教育の研究(4年目) 2 地域の実態調査研究(2年目) 3 実験学校の経営研究 4 学習資料シリーズの編集(5~8号)
30	1 郷土教育資料「おだわら」の編集 2 小学校基準教育課程の改訂 3 中学校社会科基準教育課程の構成
31	1 小学校国語・算数学力調査 2 小・中学校社会科単元展開資料集の作成 3 小・中学校理科学力調査 4 学習資料シリーズの編集(9号)
32	1 道德教育の調査 2 学習指導上の問題点とその対策(音楽・家庭科) 3 学級経営上の問題点とその対策 4 学習資料シリーズの編集(10~11号)
33	1 知能・学力調査 2 道德教育に関する調査研究(全教連共同研究) 3 道德教育計画の研究 4 学習資料シリーズの編集(12号)
34	1 意識と行動のずれの調査 2 道德資料の研究 3 指導要領研究
35	1 道德教育の研究 2 教育課程の研究(3年間の1年目) 3 学力調査(2年間の1年目) 4 学習資料シリーズの編集(13号)
36	1 教育課程の研究(2年目) 2 学力調査の分析研究(2年目) 3 理科教育の研究
37	1 教育課程の研究(3年目) 2 算数診断テストによる調査研究

年度	研 究 内 容
38	1 国語科の研究 2 算数・数学科の系統的指導の研究 3 子どものテレビ視聴の調査
39	1 親のなやみの調査研究 2 中学校国語の研究 3 教育相談基礎研究
40	1 子どものなやみ調査 2 小・中学校全教科カリキュラム作成研究 3 教育相談事例研究
41	1 小田原の教育基本計画（2年間の1年目） 2 ひとりっ子の調査研究 3 かぎっ子の調査研究
42	1 小田原の教育基本計画（2年目） 2 社会科副読本編集研究—小学校3年生用（2年間の1年目） 3 留守家庭児童・生徒指導対策 4 個人委託研究（第1集） 5 懸賞論文募集（第1集） 6 小田原市義務教育体制の変遷
43	1 社会科副読本編集研究（2年目） 2 教育行財政資料作成研究 3 通学区の問題点調査研究（2年目の1年目） 4 個人委託研究（第2集） 5 懸賞論文募集（第2集）
44	1 郷土読本編集研究（2年間の1年目） 2 通学区の問題点調査研究（2年目） 3 特別教室設備基準作成研究（理科教室） 4 社会科副読本改訂研究（3年間の1年目） 5 個人委託研究（第3集） 6 教育実践記録募集（第1集）
45	1 郷土読本編集研究（2年目） 2 特別教室設備基準作成研究（技術・家庭科，図工科） 3 社会科副読本改訂研究（2年目） 4 個人委託研究（第4集） 5 教育実践記録募集（第2集） 6 創立20周年記念誌刊行
46	1 道徳の指導資料と活用の手引き作成研究（3年間の1年目） 2 社会科副読本改訂研究（3年目） 3 個人委託研究（第5集） 4 教育実践記録募集（第3集）
47	1 道徳の指導資料と活用の手引き作成研究（2年目） 2 中学校特別活動の研究 3 個人委託研究（第6集） 4 教育実践記録募集（第4集）
48	1 道徳の指導資料と活用の手引き作成研究（3年目） 2 幼稚園教育課程の研究（2年間の1年目） 3 学校教育推進のための基礎資料調査研究（3年間の1年目） 4 中学校の生徒理解と教育相談活動 5 小学校社会科学習資料の研究（副読本の手引き及び小学校白地図）

年度	研 究 内 容
48	6 個人委託研究(第7集) 7 教育実践記録募集(第5集)
49	1 幼稚園教育課程の研究(2年目) 2 学校教育推進のための基礎資料調査研究(2年目) 3 小学校の学級指導の研究 4 小・中学校における性教育の調査研究 5 小田原近代教育史資料調査研究(10年間の1年目) 6 個人委託研究(第8集) 7 教育実践記録募集(第6集)
50	1 幼稚園教育課程手引きの研究 2 学校教育推進のための基礎資料調査研究(3年目) 3 小田原近代教育史資料調査研究(2年目) 4 個人委託研究(第9集)
51	1 小田原近代教育史資料調査研究(3年目) 2 小学校特別活動(特に学級会活動)研究 3 家庭教育に関する調査研究 4 郷土読本「小田原」改訂の研究
52	1 小田原近代教育史資料調査研究(4年目) 2 特別活動(児童会・生徒会活動)研究 3 幼児教育に関する調査研究
53	1 小田原近代教育史資料調査研究(5年目) 2 教育課程編成の研究－ゆとりと充実の時間の研究(小・2年間の1年目, 中・3年間の1年目) 3 小学校社会科副読本作成の研究(2年間の1年目) 4 幼稚園教育課程改訂の研究(2年間の1年目)
54	1 小田原近代教育史資料調査研究(6年目) 2 教育課程編成の研究－ゆとりと充実の時間の研究(小・中・2年目) 3 小学校社会科副読本作成の研究(2年目) 4 幼稚園教育課程改訂の研究(2年目)
55	1 小田原近代教育史資料調査研究(7年目) 2 教育課程編成の研究 －小学校における合科的な指導の研究(4年間の1年目) －中学校におけるゆとりと充実の時間の研究(3年目) 3 小学校社会科副読本活用の手引き(Ⅰ)作成の研究 4 幼稚園教育課程(改訂版)活用の手引き作成の研究(2年間の1年目)
56	1 小田原近代教育史資料調査研究(8年目) 2 小学校における合科的指導の研究(2年目) 3 小学校社会科副読本活用の手引き(Ⅱ)作成の研究 4 幼稚園教育課程(改訂版)活用の手引き作成の研究(2年目) 5 中学生の生活と意識に関する調査研究(2年間の1年目) 6 郷土読本「小田原」改訂の研究
57	1 小田原近代教育史資料調査研究(9年目) 2 小学校における合科的指導の研究(3年目) 3 中学生の生活と意識に関する調査研究(2年目) 4 幼児の発達段階をふまえた保育の研究(2年間の1年目)
58	1 小田原近代教育史資料調査研究(10年目) 2 幼児の発達段階をふまえた保育の研究(2年目) 3 小学校における合科的指導の研究(4年目) 4 小学校社会科副読本「わたしたちの小田原」改訂の研究

年度	研 究 内 容
58	5 望ましい学級経営の研究(2年間の1年目)
59	1 幼児の発達段階をふまえた保育の研究(2年間の1年目) 2 望ましい学級経営の研究(2年目) 3 小田原付近の植物調査研究(3年間の1年目)
60	1 幼児の発達段階をふまえた保育の研究(2年目) 2 児童指導の研究(2年間の1年目) 3 小田原付近の植物調査研究(2年目)
61	1 幼児の発達段階をふまえた保育の研究(2年間の1年目) 2 児童指導の研究(2年目) 3 小田原付近の植物調査研究(3年目) 4 郷土読本「小田原」改訂の研究
62	1 幼児の発達段階をふまえた保育の研究(2年目) 2 個性・個別教育の研究(3年間の1年目) 3 小田原付近の植物調査研究(2年間の1年目) 4 特殊教育課程の研究—小学校(2年間の1年目) 5 小学校社会科副読本「わたしたちの小田原」改訂の研究
63	1 幼稚園教育課程の研究(2年間の1年目) 2 個性・個別教育の研究(2年目) 3 小田原付近の植物調査研究(2年目) 4 特殊教育課程の研究—小学校(2年目)
平成 元	1 幼稚園教育課程の研究(2年目) 2 個性・個別教育の研究(3年目) 3 小学校教育課程生活科の研究(2年間の1年目) 4 特殊教育課程の研究—中学校(2年間の1年目)
2	1 幼稚園教育課程の研究(2年間の1年目) 2 個別化個性化教育のための教育情報に関する研究(3年間の1年目) 3 小学校教育課程生活科の研究(2年目) 4 特殊教育課程の研究—中学校(2年目)
3	1 幼稚園教育課程の研究(2年目) 2 個別化個性化教育のための教育情報に関する研究(2年目) 3 小学校社会科副読本改訂に関する研究(2年間の1年目) 4 中学校におけるコンピュータの活用に関する研究(2年間の1年目) 5 登校拒否(不登校)児童・生徒に関する事例的研究(2年間の1年目)
4	1 幼稚園教育課程の研究(2年間の1年目) 2 小学校社会科副読本改訂に関する研究(2年目) 3 中学校におけるコンピュータの活用に関する研究(2年目) 4 個別化個性化教育のための教育情報に関する研究(3年目) 5 登校拒否(不登校)児童・生徒に関する事例的研究(2年目)
5	1 幼稚園教育課程の研究(2年目) 2 小学校社会科副読本の活用に関する研究 3 小学校における情報教育に関する研究(3年間の1年目) 4 中学校における情報教育に関する研究(2年間の1年目) 5 「小田原の自然」学習ガイド作成に関する研究(4年間の1年目) 6 個に応じた教育方法の多様化に関する研究(2年間の1年目) 7 学校教育相談に関する研究(2年間の1年目)
6	1 小学校における情報教育に関する研究(2年目) 2 中学校における情報教育に関する研究(2年目) 3 「小田原の自然」学習ガイド作成に関する研究(2年目)

年度	研 究 内 容
6	4 個に応じた教育方法の多様化に関する研究(2年目) 5 学校教育相談に関する研究(2年目)
7	1 幼稚園教育課程に関する研究(2年間の1年目) 2 小学校における情報教育に関する研究(3年目) 3 「小田原の自然」学習ガイド作成に関する研究(3年目) 4 教育方法の改善・開発に関する研究(2年間の1年目) 5 郷土読本「小田原」に関する研究
8	1 幼稚園教育課程に関する研究(2年目) 2 「小田原の自然」学習ガイド作成に関する研究(4年目) 3 教育方法の改善・開発に関する研究(2年目) 4 環境教育に関する研究(2年間の1年目)
9	1 小学校環境教育に関する研究(2年目) 中学校環境教育に関する研究(3年間の1年目) 幼稚園環境教育に関する研究(3年間の1年目) 2 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(1年間) 3 インターネット利用に関する研究(半年間) 4 学校カウンセリングに関する研究(1年間) 5 小学校社会科副読本改訂に関する研究(1年間)
10	1 小学校環境教育に関する研究(3年目)延長 中学校環境教育に関する研究(2年目) 幼稚園環境教育に関する研究(2年目) 2 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(2年目)延長 3 インターネット利用に関する研究(2年目)延長 4 学校カウンセリングに関する研究(2年目)延長
11	1 小学校環境教育に関する研究(4年目)延長 中学校環境教育に関する研究(3年目) 幼稚園環境教育に関する研究(3年目) 2 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(3年目)延長 3 インターネット利用に関する研究(3年目)延長 4 学校カウンセリングに関する研究(3年目)延長
12	1 幼稚園教育課程に関する研究(2年間の1年目) 2 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(4年目)延長 3 インターネット利用に関する研究(4年目)延長 4 学校カウンセリングに関する研究(4年目)延長 5 中学校総合的な学習の時間に関する研究(2年間の1年目) 6 小学校社会科副読本「わたしたちの小田原」改訂に関する研究(2年間の1年目)
13	1 幼稚園教育課程に関する研究(2年目) 2 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(5年目)延長 3 インターネット利用に関する研究(5年目)延長 4 学校カウンセリングに関する研究(5年目)延長 5 中学校総合的な学習の時間に関する研究(2年目) 6 小学校社会科副読本改訂に関する研究(2年目)
14	1 児童・生徒の生活と意識に関する実態調査研究(2年間の1年目) 2 指導に配慮を要する子どもたちの対応に関する研究(2年間の1年目) 3 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(2年間の1年目) 4 インターネット利用に関する研究(6年目)延長 5 小学校社会科副読本活用に関する研究(1年間) 6 幼稚園教育課程に関する研究(2年間の1年目)

年度	研 究 内 容
15	1 児童・生徒の生活と意識に関する実態調査研究(2年目) 2 指導に配慮を要する子どもたちの対応に関する研究(2年目) 3 教育におけるコンピュータ利用に関する研究(2年目) 4 インターネット利用に関する研究(7年目)延長 5 評価・評定に関する研究(2年間の1年目) 6 幼稚園教育課程に関する研究(2年目)
16	1 ニ宮尊徳読み物資料の作成に関する研究(1年間) 2 特別支援教育に関する研究(2年間の1年目) 3 学校生活実態調査(2年間の1年目) 4 評価・評定に関する研究(2年間の2年目) 5 インターネット利用に関する研究(8年目)延長
17	1 ニ宮尊徳読み物資料の作成に関する研究(2年目)延長 2 特別支援教育に関する研究(2年間の2年目) 3 学校生活実態調査(2年間の2年目) 4 評価・評定に関する研究(3年目)延長 5 教育ネットワーク利用に関する研究(1年間の1年目)
18	1 教育ネットワーク利用に関する研究(2年目)延長 2 幼・小・中生活実態調査(2年間の1年目) 3 不登校生徒を対象にした学習支援のあり方に関する研究(2年間の1年目) 4 小学校英語活動に関する研究 5 学級経営に関する研究(2年間の1年目) 6 「小田原の自然」改訂(2年間の1年目) 7 小田原近代教育史の編纂(5年間の1年目)
19	1 幼・小・中生活実態調査(2年間の2年目) 2 不登校生徒を対象にした学習支援のあり方に関する研究(2年間の2年目) 3 学級経営に関する研究(2年間の2年目) 4 「小田原の自然」改訂(2年間の2年目) 5 小田原近代教育史の編纂(5年間の2年目) 6 郷土読本「小田原」改訂
20	1 小田原近代教育史の編纂(3年目) 2 不登校対策に関する研究(2年間の1年目) 3 小学校外国語活動に関する研究(2年間の1年目) 4 小学校学習指導法に関する研究(2年間の1年目) 5 中学校学習指導法に関する研究(2年間1年目)
21	1 不登校対策に関する研究(2年間の2年目) 2 小学校外国語活動に関する研究(2年間の2年目) 3 小学校学習指導法に関する研究(2年間の2年目) 4 中学校学習指導法に関する研究(2年間の2年目) 5 小学校学級経営に関する研究(2年間の1年目)
22	1 授業評価を活用した授業改善に関する研究(2年間の1年目) 2 小学校外国語活動に関する研究(3年目)延長 3 学校におけるOJTを活用した人材育成に関する研究(2年間の1年目) 4 小・中学校が連携したキャリア教育に関する研究(2年間の1年目) 5 小学校学級経営に関する研究(2年間の2年目)
23	1 授業評価を活用した授業改善に関する研究(2年間の2年目) 2 小学校外国語活動に関する研究(4年目)延長 3 学校におけるOJTを活用した人材育成に関する研究(2年間の2年目) 4 小・中学校が連携したキャリア教育に関する研究(2年間の2年目) 5 小学校社会科副読本に関する研究(2年間の1年目)

年度	研 究 内 容
24	1 小学校社会科副読本に関する研究(2年間の2年目) 2 児童・生徒の学習意欲の向上に関する研究(2年間の1年目) 3 学習の困難さに対する支援に関する研究(2年間の1年目) 4 小田原版市民教育の教材開発に関する研究(2年間の1年目)
25	1 児童・生徒の学習意欲の向上に関する研究(2年間の2年目) 2 学習の困難さに対する支援に関する研究(2年間の2年目) 3 小田原版市民教育の教材開発に関する研究(2年間の2年目) 4 幼保・小の連携に関する研究(2年間の1年目)
26	1 幼保・小の連携に関する研究(2年間の2年目) 2 情報モラル教育の充実に関する研究(2年間の1年目) 3 全国学力・学習状況調査の活用に関する研究(2年間の1年目) 4 学校情報の発信に関する研究(2年間の1年目)
27	1 情報モラル教育の充実に関する研究(2年間の2年目) 2 全国学力・学習状況調査の活用に関する研究(2年間の2年目) 3 学校情報の発信に関する研究(2年間の2年目) 4 児童生徒の読書に関する研究(2年間の1年目)
28	1 児童生徒の読書に関する研究(2年間の2年目) 2 道徳の教科化に伴う指導法と評価に関する研究(2年間の1年目) 3 郷土読本「小田原」の改訂に関する研究(2年間の1年目)
29	1 道徳の教科化に伴う指導法と評価に関する研究(2年間の2年目) 2 郷土読本「小田原」の改訂に関する研究(2年間の2年目) 3 小田原近代教育史の編纂(2年間の1年目)
30	1 小田原近代教育史の編纂(2年間の2年目) 2 ICTを活用した授業作りに関する研究(2年間の1年目) 3 小学校外国語の授業と評価に関する研究(2年間の1年目)
令和 元年	1 ICTを活用した授業作りに関する研究(2年間の2年目) 2 小学校外国語の授業と評価に関する研究(2年間の2年目)
2	1 ICTを活用した個に応じた指導に関する研究(1年間の1年目)中止 2 児童生徒が主体的に取り組む特別活動に関する研究(2年間の1年目)
3	1 児童生徒が主体的に取り組む特別活動に関する研究(2年間の2年目) 2 ICTを活用した個別最適な学びに関する研究(2年間の1年目) 3 ICTを活用した協働的な学びに関する研究(2年間の1年目)
4	1 ICTを活用した個別最適な学びに関する研究(2年間の2年目) 2 ICTを活用した協働的な学びに関する研究(2年間の2年目) 3 STEAM教育に関する研究(2年間の1年目)
5	1 STEAM教育に関する研究(2年間の2年目) 2 一人一人の学びにICTを生かす実践研究(2年間の1年目)
6	1 児童生徒一人ひとりが個別最適な学びを充実させる授業づくり～ICTを必要に応じて個々の学びに生かす～(2年間の2年目) 2 小田原版STEAM教育の充実に関する研究(2年間の1年目)
7	1 小田原版STEAM教育の充実に関する研究(2年間の2年目) 2 主体的に学ぶ力を伸ばす研究(2年間の1年目)

15 教育図書及び資料等の収集と提供

(1) 蔵書数(教育研究所内) 令和7年3月現在

①教育図書 3,865冊

②教育資料 1,019冊

(2) 図書・資料等の貸し出し(小田原市教職員対象)

①貸し出しの時間・期間 8時30分から16時45分まで(1か月間)

②手続き(電話 33-1730)

校務支援ネットワークにある「市内共有・99教育委員会・05教育指導課・23教育図書」から
「教育図書(2023-7-1)」を選択、図書を検索し申し込む。
(来所、電話、ファクシミリ、メールで申し込み可能。)

(3) 教科書の整理・閲覧

①小学校、中学校教科書の整理・閲覧

②副読本の整理・閲覧

(4) その他の資料等

教材用ビデオ/DVD・CD/液晶プロジェクター